

千里にほんご 「みんなで一歩、前へ！」

千里にほんご 浅野雅代

千里にほんご

- ・千里地域連携センターコラボ（以下コラボ）、とよなか国際交流協会（以下国流）、ボランティア経験者による準備会を経て、2017年4月に新規ボランティアを増員して発足。

問題把握

- ・始動後、ミーティングを開いて様々な点を議論してきたものの、時間に限りもあり、具体的なまとめまではいかない状態だった。

課題設定

- ・学習スタイル、保育など、すでに挙がっているグループ全体の課題について、効率的な合意形成ができず、具体的な行動がとれていない。

取り組み

地域日本語教育コーディネーター研修のワークショップをグループに導入する

ファシリテーション

ボランティア、コラボ、国流で、活動半年を振り返るミーティングを開き、次の活動ステップへの取り組みとしてワークショップ開催を提案（キックオフ）。

連携・リソースの把握・活用

（ワークショップ開催に向けて）

ボランティア⇒ファシリテーター1名（浅野）。 コラボ⇒会場設定、用品手配。

国流⇒アドバイザー1名、参加者1名派遣。ファシリテーターと事前準備を打ち合わせ。

方法の開発

みんなの意見、思い、希望を、わかりあい、行動できる形にするには？！

グループ分け

一度、立場を超えて、個人で全体のことを考える。カードで出席すればいい。

学習者、ボランティア（経験者、新規者）、コラボ、国流の立場を分散、配置。

カードは各自の考えで書く。欠席者は事前にカードを書いて提出。

グループワーク

まずは話しやすい人数でじっくり話す 分類、課題、対策までグループでまとめる。

ワールドカフェ

ほかのグループを回ったり、説明したりで、意見を取り入れ、改めて見直す

他グループの成果を見て回り、自グループの内容を再検討。他グループに説明することで、発見も！

グループ発表

短時間で共有 同じ課題、対策、異なる意見のあることを全体で共有する。「やっぱり、そうだよね！」

全体ミーティング

見てわかる形で合意形成 グループ発表の要旨を板書で書き出す。共通する項目を採択し、

まとめていく。実行できるものの順位と手順を決める。キーワードを共有し、みんなで再確認。

成果

「立場の違ういろいろな人と意見交換ができ、今まで気づけなかった発見があった。」

「現状打破へのたくさんのアイデアが出た。」

「短時間で話がまとまった。」

ボランティア・学習者

- ・共通認識の再確認ができた ・千里にほんごを外国人生活者の地域での暮らしの拠点に。
- ・優先順位がはっきりした ・年間スケジュールをたて、見通しを持って活動。
- ・できることから実施 ・当番制の見直し。イベント系の創設。保育ボランティアの募集。アンケートで意見集約。
- ・グッドアイデアが出てきた！ ・カード型チラシを作ってみんなで配り、知名度アップ！
- ・学習者ニーズを大切に ・学習スタイルを柔軟な形に！ 個別学習×グループトークで学習と交流と。
- ・コミュニケーションがとれた ・学習者、ボランティア、コラボ、国流の「みんなでやっていく感じ」が深まった。

千里地域連携センター コラボ

- ・地域との窓口・会場提供 ・新規や子供見守りのボランティア募集、研修。地域機関との連携。会場の確保、備品管理等

とよなか交際交流協会

- ・学習者とのパイプ役→ ・千里にほんごからの情報を支援につなぐ。学習者へのPR、情報提供、研修の実施など。